

多摩センターのエリアイメージ向上につながる運営を期待。

図書館の再整備に先行し、既にパルテノン多摩の大規模改修が終わり、多摩中央公園の改修工事も始まるというタイミング。しかし、年初め、京王プラザホテル多摩が閉館し、多摩美術大学国際美術館も3月に閉鎖されることが明らかになりました。今後のまちの行方を心配する声を多数伺っています。当然のことと思います。

私は住宅都市として発展してきた多摩センターエリアは「みんなの学園に」というイメージで考えてきました。

阿部市長は「図書館運営は直営で」と述べられていますが、今こそ、市が直接運営する強みを活かし、多摩センターの新たなまちづくりをけん引する役割を担える中央図書館になることも期待されているのではないのでしょうか。

だからこそ、市民とともに歩める“開かれた図書館”に！

中央図書館開館にあたっては、「図書館本館閉館・中央図書館開館記念イベント」のアイデアを募集し、56件の応募があり、現段階で実現可能なものが選ばれ、実施の方向で準備が進んでいます。

今回採用されなかった提案であっても、時間をかけて実現できるものは実施していきたいとしています。こうしたアイデア募集は市民とともに歩む図書館の第一歩かもしれません。

しかし、それ以上に大切なのは日常の図書館運営に市民がどう加わるのか検討し、職員とともに図書館づくりに参加し、これまでの殻を破り、図書館行政を発展させていくことではないかと思っています。

そのためにも広く図書館に関心を持つ市民の皆さんとの意思疎通、コミュニケーションを積極的に図ってほしいと考えています。市民の想いとかげ離れることなく、市民の拠り所となるよりよい図書館づくりを進めていきたいですね！



PROFILE

1977年 兵庫県神戸市生まれ 1989年 北諏訪小学校卒 1992年 桐朋女子中学校卒
1995年 桐朋女子高等学校(普通科)卒 1999年 中央大学法学部政治学科卒 1999年～2002年 中小企業金融公庫(今の日本政策金融公庫)勤務 2006年 明治大学公共政策大学院がバナンス研究科修了(公共政策学修士) 2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙初当選 現在6期21年目 諏訪2丁目在住 家族/娘18歳

Phone&Fax

☎: 042-371-0763

いたずら、迷惑電話が多く、留守番電話専用になっています。お名前、ご用件と希望する連絡先等をお願いいたします。

mail: hisaka_box@yahoo.co.jp

多摩市議会議員 政党や特定団体の支援は一切受けず完全無所属で活動中

岩永ひさか Report

<http://www.iwanaga-hisaka.net>

発行/岩永ひさかと夢・まち会議 Phone(留守番電話専用)/042-371-0763



最近、毎日が瞬く間に過ぎていき、気がつくと、もう2月も半ば。3月の議会では新年度予算の議論も始まります。

我が家では18歳で成人になった娘が無事に高校生活の終わりを迎えることができそうで、何となく自分自身では子育てひと段落の感あり。とは言え、まだまだしばらく、親の「すねかじり」は続きそうです。都会を離れ、離島で寮生活をしながら、高校に通う選択肢には驚き、親にとっては想定外でしたが、今となっては、「子どもの選択」を尊重してよかったなと思っています。高校の卒業式はちょうど3月議会の初日と重なるため出席できず、残念です。

「もっとフェアに」「『違い』を力に変えていく」

地域からフェアな政治、民主主義をつくりたいと考え、政党に所属せず、活動を始めて4年が過ぎました。「地域の政治」に向き合う姿勢をこれからも変えず、大切にし、一人ひとりの市民の皆さんとつながる力を活かし、「持続可能な社会をつくる」を優先に、議会、議員活動を進めていきたいと心を新たにしています。

2023年2月

岩永ひさか

今号のテーマ
多摩センターに完成する
中央図書館に思う。

市民自治、市民協働の拠点となる図書館を！

Policy & Style

公平公正な姿勢！

市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会はつきりません。

政策づくりが議員の仕事！

議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。

話し合いが大切！

意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。



日々の活動を地道に重ねていくことをモットーに。

多摩センターに完成する中央図書館に思う。

市民自治、市民協働の拠点となる図書館を！

多摩中央公園内に新設される「多摩市立中央図書館」。3月中旬の竣工をめざし、着々と建設工事が進み、今年7月に向けた開館準備も進んでいます。

多摩市立図書館「本館」から
多摩市立「中央図書館」へ

多摩市役所敷地内にあった「図書館本館」が旧西落合中学校跡地に移転されてから10年余り。当時、移設するにあたって「暫定的に10年程度、学校跡地を活用する」とされていたことから、その後の対応が協議されてきました。

行財政改革が余儀なくされ、図書館行政のみならず、将来を見据えた公共施設の維持管理問題をどうしていくかも含め、その後の方針が決まらないまま年月ばかりが過ぎていました。しかし、図書、資料の保管問題をはじめ、旧西落合中学校跡地を使用し続けることも現実的には難しく、結果、多摩中央公園内に新たな図書館を再整備、建設する運びとなり、現在に至ります。

そして、いよいよ7月には「多摩市立図書館本館」を改め、「多摩市立中央図書館」として再出発することになりました。



「中央図書館」になったら…？
何が変わるのか。

従前、多摩市は「中央図書館」は建設しない、多摩市の図書館行政は「中央図書館機能のある本館」を中心に運営していくとの説明を繰り返してきましたが、「図書館本館」を再整備するにあたっては「中央図書館」の建設と改められ、昨年12月議会でも「図書館条例」を改正し、「多摩市立中央図書館」に変更することが正式に決まりました。

個人的には、未だ、「本館」から「中央図書館」に変わる理由が十分に示されているようには思えないのですが、昨年11月に示された「多摩市立中央図書館管理運営方針」には「これまでの多摩市立図書館にはなかった蔵書規模と設備を備えた市の中心的な図書館機能に加え、地域館、拠点館を支援し、図書館ネットワークの中核となる図書館とすること。」と書かれており、これまで以上の機能発揮が構想されているようです。

市公式ホームページへ

多摩市立中央図書館
整備事業について



また、本方針を策定するにあたり、教育長は「中央図書館の開館を契機とし、市民の「知る」を支援し、市民の多様な活動を支える図書館として、しっかりと役割を果たしていきます」と述べています。ぜひ、実効性のある具現化策を切望します。

「市民自治」「市民協働」の原点にあるのは情報公開。

図書館の機能は図書、資料の貸し出しのみでなく、市民の知的関心に応え、市民が必要とする情報を提供すること、それに加え、市民の好奇心を引き出し、個々人の問題や課題意識の醸成に結びつけ、市民力を育むとともに、「よりよく生きる」を応援する役割があるのではないかと考えています。

そして、私たちの想像力あるいは創造力を豊かにしていくことのできる場所であり、そこにはいつも争いのない「平和・幸せ」があるのではないかと思います。

さらに、市民自治、市民協働を掲げる多摩市のまちづくりを考えるうえでも、「行政資料」を提供し、行政情報を市民にわかりやすく整理し、公開する機能を果たせる図書館の役割は今後、ますます重視されなければならないと考えています。

市公式ホームページへ

多摩市立中央図書館
管理運営方針



多摩市制50周年を経て、過去の歴史をたどり、学び、未来のまちづくりにつながる知恵やアイデアを育むための資料を揃えること、また、多摩ニュータウンという国家プロジェクトを受け入れてきた多摩市の成立に関わるここにしか存在しない貴重で重要な資料の活用も大切なこととなっていくはずでは



図書館を支える「市民の力」を育んでいきたい。

さて、図書館運営の現状を考えると、実際には必要とされる十分な人材確保ができていないと言え、難しいと捉えています。2011年に開館した唐木田図書館についても、そのことをひとつの理由として、窓口業務の委託という形での民間事業者の運営が試行的に導入されたまま、現在に至ります。

だからこそ、市民のための図書館を築きあげていくためにも、今後ますます、市民の力で支え、育てていくことが必要ではないでしょうか。

そして、図書館を市民自治、市民協働の拠点とし、「市民とともに」成長し、発展できる場所にしていきたいものです。